

松原 5・6 丁目 自治会だより

◎「松原 5・6 丁目自治会」は、平成 17 年 1 月 12 日、世田谷区において、地方自治法第 260 条の 2 に基づき、地縁団体の認可を受けております。

12月号

今年は秋の虫の声を聞くことなく一気に冬になってしまいました。EU の気象情報機関が、今年の地球は過去 12 万 5 千年間で最も暖かい年になると発表しました。10 月も 11 月も世界的な高気温が続いたためです。そのため熱波や洪水、森林火災で多数の死者が出ています。温室効果ガスの排出と海面水温が高くなるエルニーニョ現象が発生した結果とのこと。個人でも電気や車、ガスの使い方を見直すことが大切です。寒暖差にも注意をはらい体調維持に努めて参りましょう。

これからの主な行事予定

- ☆歳末たすけあい・地域支えあい募金
11 月 15 日（水）～12 月 15 日（金）
- ☆東松原商店街クリスマスフェア
12 月 1 日（金）～24 日（日）
*スタンプラリー歳末福引売り出し
（24 日に商店街事務所において抽選会）
*餅つき大会（12 月 10 日[日]16:30～）
- ☆消防団による歳末特別警戒
12 月 25 日（月）～31 日（日）

自治会館での定例の活動

スズランの会（高齢者の集い）

- 12 月 15 日（金）午前 10 時～12 時
- *ビンゴ大会
- *「あんすこ」の話と体操
- ※参加費 100 円、お菓子提供

自治会からのお知らせ

★11 月 7 日「赤い羽根共同募金」をお届け
10 月 1 日から実施された 76 回目の「赤い羽根共同募金」に寄付を頂いた 209,432 円（内、自治会費より 130,000 円を拠出）を、11 月 7 日まちづくりセンター経由で「共同募金世田谷区協会」にお届けしました。

10 月 7 日 古着の回収



梅丘分庁舎・松原まちづくりセンターにおいて実施された古着の回収は皆様のご協力で約 4.23t の古着が回収されました。

10 月 28 日 緑化フェア



今回は松原 3 丁目の「弁天児童遊園」で行われ、オリーブ、ミニバラ等の苗木の配布、緑化クイズ、牛乳パックの交換等でにぎわいました。

11 月 18 日 秋の歩こう会



大正・昭和期に別荘地として栄えた杉並区荻窪を巡る約 4.1 km の行程を 38 人の方が参加して実施されました。（写真は大田黒公園）

令和5年度 梅丘中学校 避難所運営訓練を実施

11月11日(土)午前、梅丘中学校において15回目となる避難所運営訓練を行いました。今回は地域の方も参加し、避難所運営委員(自治会役員及びPTA役員)と梅中2年生約120名が参加して実施いたしました。梅中生は室内で避難所体験訓練、応急救護訓練、校庭において初期消火の訓練を体験いたしました。

開会式では大田本部長より「東京は関東大震災以来、震度6以上の地震は起きていませんが全国では5・6年に1回は起きています。今年も5月に奥能登地震がありました。中学生の皆さんにとって一生の間に経験することは避けられないと思います。避難所は地域の拠り所であり、命をつなぐ所となります。今日の訓練では自分の命と他人の命を守るため、どう考え、行動すればいいかを判断する糧となるものです、真剣に取り組んでください」と挨拶。

閉会式で生徒の代表が「私達が生まれたのは2010年であり3.11のことは知らないし、大きい地震を経験していません。今日は色々と勉強したので災害が起きた時にしっかり頑張ります」と語っていたのが印象的でした。



【受付】

総務・情報班では、受付で梅中生・一般参加者に手指消毒、検温を行い、避難者カード・避難所における生活ルールを配布し説明を行った。



【避難者居住スペースの設置】

避難所班ではダンボールを材料にした居住スペースについて説明した後、実際に生徒達に間仕切りを組み立ててもらった。生徒には出来上がった居住スペースに入ってもらい、避難所生活においては「プライベートの確保」が重要であることを体験してもらった。



【簡易トイレの組み立て】

救護・衛生班では、震災時には下水道が破壊されて自宅のトイレや避難所のトイレが使用できなくなることを、したがって水、食料とともに排泄用の簡易トイレ・凝固剤を備えておくことが大事であることを説明。生徒達には一組3人のグループに分かれてプラダン製の簡易トイレを組み立ててもらった。



世田谷消防署松原出張所の隊員・消防団から三角巾を使った応急救護の方法を学んだ。(左)

校庭では初期消火・カセット式発電機操作の訓練を受けた。(右)





こんにちは 松原あんしんすこやかセンターです!

松原5・6丁目と松原あんしんすこやかセンターとの関わり

○毎月第3金曜日のスズランの会に参加をしています。
あんすこからのお話しの時間をいただき、その時に
合わせて熱中症予防や介護予防などのお話と、毎回
簡単な体操を行っています。

4月には、認知症に関する出前講座を開催しました。



○今年も「ふれあい絆フェスタ」に参加し、血管年齢や
体組成を測定する健康相談のブースを出しました。



○松原まちづくりセンター前でラジオ体操を始めました!
一緒に身体を動かしてみませんか。
毎週火・金曜 午前9時30分～45分
雨天中止、祝日は休み

まちづくりセンター、社会福祉協議会松原地区事務局に松沢児童館
(赤堤 4-37-14) が加わった4者と協力して「福祉の相談窓口」とし
て、地域住民の皆さまが安心して暮らし続けられる松原地区を目指し
ています。

困る前に、困りそうになったら、困ったら・・・
いつでもお気軽にお声かけください。



松原あんしんすこやかセンター (地域包括支援センター)

世田谷区松原 5-43-28

電話 : 03-3323-2511

FAX : 03-5300-0212

窓口開設 : 月曜日から土曜日 8:30~17:00
(日曜・祝日・年末年始 休み)

松原の歴史 ③④ [番外編]

* 正月二題

年の暮れの大掃除が近づく。神棚や仏壇も清め、新しいお札や注連飾（しめかざ）りを替え、鏡餅や門松もつけ、家内外をさっぱりとして、お正月を迎えたいものである。

[雑煮と年男]

お正月の三が日にはお雑煮を頂く。本来は大晦日に神棚に供えた鏡餅を元日にたべるのであるが、新年を迎え得た幸せを喜び、一年の健康至福を家族皆で祈願するのである。家によってはしきたりで若い男子が年男となり、いつもの母親や女手に代わって、三が日だけ雑煮造りを受けもつ。「お母さんお餅はいくつ食べますか」と聞いてまわる。東京式はすまし汁仕立てで、だしをとったり、野菜の皮をむいたり、男の調理は大変である。餅は軽く焼いて入れ、神仏に先ず供えてから家族皆で食べる。関西式はみそ汁仕立てで、丸餅を使う。

松原近辺で小正月（1月14日、15日）にはのし餅やなまこ餅などを米俵で何俵もついで、水餅にして保存し、主食の代用にしたものであるが、今ではそうする家は少なくなってしまう。

[ぼろ市と代官屋敷]

小正月には繭玉（まゆだま）や餅花を作ったり、ドンド焼きなどをしたが、今では少なくなってしまった。昔から、12月と1月の14、15日にはぼろ市が開かれる。世田谷線上市野駅南の代官屋敷のまわりの道路には、70軒ほどの店が出て賑やかである。

食べ物、古衣、古道具、植木類等が売られる。小田原城主の北条氏政が楽市を開き、産業の振興改革を図ったのが始まりである。

ぼろ市通りの中ほどには武家屋敷門や代官屋敷があって珍しく、初代代官の大場家の屋敷である。今からおよそ250年程前に建てられたもので、共に茅ぶきで、母屋には代官や名主の詰所、裏手には罪人を裁くお白洲などがある。隣には郷土資料館があり、世田谷区内の歴史資料、図書、文化財資料等がある。（「伊兵衛のむかし話」大庭伊兵衛筆より）



【ぼろ市の由来】

1578年、北条氏政は姻戚関係にあった吉良氏朝の城下町、世田谷新宿（現・世田谷1丁目）に楽市を開いた。独占販売権等の特権をもつ商工業者を排除して自由市場を作り、税の減免を通して新興商工業者を育成し、経済活性化を図った。当時、世田谷新宿は江戸の西玄関口として交通の要衝の地であった。

ところが1590年、北条氏が豊臣秀吉によって滅ぼされ、北条氏傘下の吉良氏は下総に逃げ、世田谷城は廃城となってしまった。だが江戸時代になっても楽市の伝統は生き続け、明治期には歳市の市として、新旧両暦の14、15日に開かれていた。そして現在に引き継がれ、毎年暮れの12月と正月の14、15日の両日開催となってポロ市として開かれているのである。明治の頃、農家の作業着の古着や草鞋に編み込むポロ等が安く売られるようになってポロ市といわれるようになったという。

【編集後記】 梅丘中学校における避難所運営訓練には毎回、梅中2年生が課外授業として訓練に参加しています。梁瀬校長が「災害が起きた際、中学生の力が大きい。頭を使って臨機応変に行動できる」と語っていましたが、訓練を体験したメンバーが年々、地域に増えていくことは誠に心強い限りです。（編集係）

事務局 松原5・6丁目自治会 自治会館
156-0043 松原5-8-11 TEL・FAX 3321-2422
※ 自治会HPのアドレス及びQRコード
<https://matsu56jichikai.jimdofree.com/>

